

日本風土記
五

ル 3
302
5



三呂
 302
 卷 5

日本風土記卷五

○志摩國二郡 田圃四千九百十七丁

志摩之郡州なり。志摩の郡は伊勢の
 地と詔く一玉と云

卷志 英虞 龜嶋 内一郡伊勢なり

下後 四方半日

知行其 一万七千八百四十石 江古川 舟路 百九四里 百十四里

城下 鳥羽城

志 一之宮 伊射波大明神



名産

荒和布

塩麩

真珠貝 鷄冠苔 麻生浦梨

鮎 鮎塩辛

涌砂

善志郡より出る五色ありて海より涌るる故に名あり

名所

名所

麻生所

伊勢より辰巳二里許あり

行枝の梨

安老子溪 不磨麻

石川真菰 不鳴蛙

鏡石

神社

伊雑

伊射波大明神

答志郡ニ有 伊雑宮是也

日本祭神

伊勢内宮之下ニ見エタリ

尾張國

八郡

田圃 七千五百二丁

地温厚ありて土肥より穀子倍と生長平均ありてふあり

ひり日本武尊東征し移りて後此土よりひり佩せる

清和と熱田の神不花むこれ神倭之氏神實と云原八岐大蛇

の尾より張勢之故不花ぬありて尾張の名付あり

海部 中津 河栗 丹羽 春日部 山田 愛智

智多 尚貨 下差大上ノ南北三日

知行高

四十八万八千四百石

江戸ヨリ

九十里

城下

名古屋城

尾張

一之宮

大神社

名産

大柁 名産屋藻魚 陶物尾張焼 綿

宮蠶

南方孩子 鳴海氏雲

瀬治打物

政常小刀 名古屋味噌

名所

阿波子社 勢田 松風里 夜寒里 星崎

香月溪

喚續橋

鳴海 萱津原

神社

真清 勢田 津島

○真清田社 中嶋郡ニ有リ 祭神 大己貴

五ノ二

命也 一宮記當國一宮也一宮記ニラスル

所以下同事也

○熱田社 年頭市郎ニ有リ 祭神一座今

為六座

天村雲劍也

傳祇園素素

鳥尊之下ニ見エタリ

○素素鳥尊勅蛇云

汝是可畏之相也敢不饗乎乃以八麩酒每

日沃天其糞飲酒而睡素素鳥尊拔劍斬之

至斬尾時劍刃少缺割而視之則劍在尾中

是号草薙劍州今在尾張國吾湯市村即熱

田祝部所掌之神是也 日本紀

神名帳註云人皇十二代景行帝十四男小碓尊後名日本武此神也大宮日本武東表名鳥南宮實姬西伊婁並北倉稱魚中央天照太神也尾張凡土記云熱田社者昔日本武命巡歷東國還時娶尾張連等遠祖宮實姬命宿於其家夜頃向廁以隨身劍掛於棗木遺之入殿乃驚更往取之劍有光如神不把握之即謂宮實姬云此劍神氣宜奉

辨之為吾形影因立社熱田鄉為名 先師說曰熱田社者日本武尊留其形影天村雲劍為御神体可謂日本武尊垂跡者 啓

○景行天皇廿八年冬十月日本武尊征東夷發路之柱道拜伊勢神宮仍辭于倭姬命云今被天白之命而東征將誅諸叛者故辭之於是倭姬命取草薙劍授日本武尊云慎之莫怠也景日日本武尊初至駿河其地賊從陽之欺云是野也麋鹿甚多氣如朝霧足

不計して叙せりしとてあざねをいりて
 同しすんふちあち毛振とせし月夜あやと
 経志と八幡と又人ならまとのとらあはれ
 といふ麻乳し神交あはるといふとあはれ
 といは猿田丸の化現とト部兼邦記心
 ○神託 アメカキタ モロヒト 天下にたふしつひあはれぬる事とて
 しくとあやうとて天と又とし地と母と
 万相と又才とて一相あはれとあはれ神國の
 三中央ふすといふとあはれとあはれ神國のあ

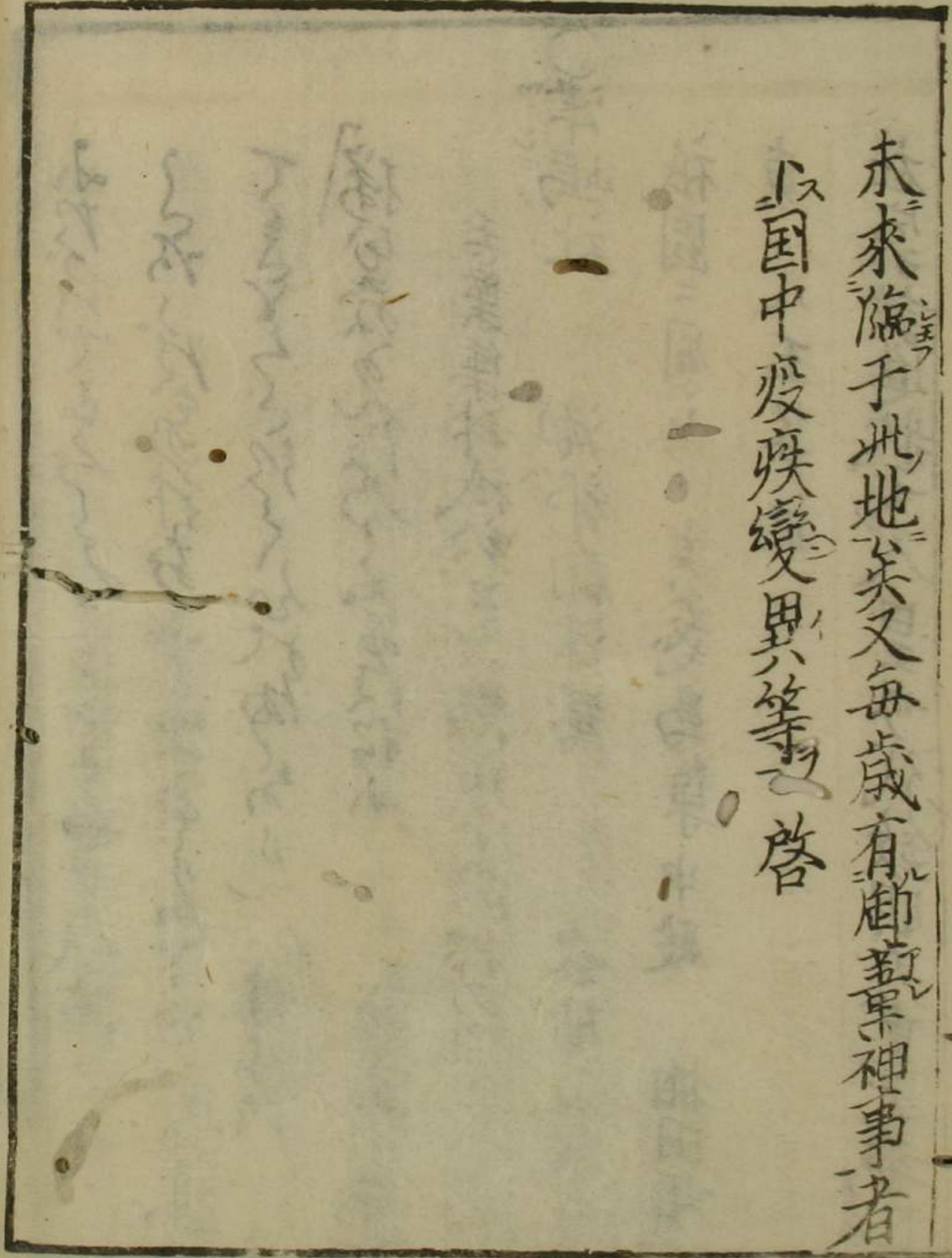
おたがいでとらとてとてとやまひあやとて
 といはばあはれあはれとてとてとあはれとて
 てとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 保田あはれとてとてとてとてとてとてとてとて

吾集集神祇記 といふ熱田の天の神の所をいふ

- 津嶋社 海部郡津島 登神山列之
- 祇園二同之 素戔嗚尊中殿 相田姫
- 東 八王子西

社家註進狀云人皇世代欽明天皇元年巳

未來臨于此地矣又每歲有脚藁禊事者
 且國中疫疾變異等事之啓



○參河國 八郡 田圃 七千五百四十一

此國小川の大河あり一より男川水上小川白根の神
 とりふ山神あり二より豊川より上より長若ありて氏
 屋を饒なり故みは名狐より二よりみと矢利川
 日本武尊東征の附け河辺あり軍勢多き

此と見ゆふより世名あり

寶鉄 碧海 賀茂 額田 瀧頭 八名
 設樂 涯美 上 下々小國東西二日半

知行高 三十五万石

江戸ヨリ 八十里余

城下	吉田城	奥殿	岡崎城	西尾城
芦屋城	田原城	拳母城	大濱	西大平

河參 一之宮 砥鹿大明神

名産

雲母 吉良山 名倉砥 田原 矢根 田原
 碇石 海邊 石貝 稚海藻 足代紙 岩屋
 菱 三つ角 寄居虫 海鼠腸 芋川温純
 火 吉田の町 八橋 徳和

名所

八橋

あつたけり共の...
 吉田...
 矢利里 二村山 宮地山 夜里 夜川 赤阪
 豊門

神社

砥鹿

○砥鹿社 室飲郡ニ有リ祭神大己貴命一宮記
 貞觀十二年八月廿八日 五位下 砥鹿神
 正五位上 同十八年六月八日 従四位上 国史

○遠江國 十四郡 田圃 一万二千九百六十町
 山河に里多し地厚なり七尺穀多倍多なり
 近きと近はるる遠きを遠はるる今ノ荒井

より舞坂まの入口より

淡名 敷智 山香 佐野 引佐 藤玉
 長上 山名 城廻 榑原 豊田 磐田府
 周知 長下 上管大上之國東西二日

知行高 二十八万石 江戸ヨリ 五十五里
 城下 濱松城 掛川城 横須賀 成

五ノ八

遠江 一之宮 己等乃麻知神社

名産 荒井鱧 淡名納豆 菊川粉 新坂蕨餅

紫根 茜 淡松蜜柑 籾 葛布掛川 白羽掛川 白羽掛川 子

白羽 松茸 小笠山ト治 榑原榑原 山 箏久野村 子

小尾山鷹 菊川矢根

名所 引佐細江 淡名橋 高師山 佐夜山

汐見坂 白菅湊 榑本 遠名湖 志呂波磯

引馬野

神社

事任コトニキ

横須ヨコスガ

○事任社コトニキ周智郡スチノ有リ祭神 大己貴命
 也也一宮記一宮記社記ニ云ク一名小国神社コクニ也也遠トシ
 州周智郡大己貴命者欽明天皇御
 宇十六年乙亥春二月十八日出現于這
 所尔來奉崇小国一宮無不欽仰奉仕也
 若遠可社頭造修達 天聽則勅使奉行
 之畢願功

五ノ九

攝社

奥石戸 王子宮 八幡内宮 外宮 八王子

真佐子社 飯王子 荒神

○文德實錄云嘉祥三年七月丙戌遠江國事任
 神授從五位下

○横須賀社 同郡横須賀村有祭神 三座

高松社一座 小笠社同 横須賀社同

社家註進云人皇四十二代文武天皇大宝元
 年秋九月奉遷此所也高松社者大市姬

命大山祇女也小笠社者素戔嗚尊也横須加社者即熊野樟日命也素戔嗚尊

○駿河國 七郡 田圃二万九百六十二丁

○山聖村里等一々海と抱さ山沢負く肥産多し昔と珠流河也書しなり郡名も駿

河あれが國の名として文字と改る所

安倍 志田 益頭 有度 廣原 富士

駿河 上管大中國東西二日半

知行高 十七万二千二百石 江戸り 四十五丁

府中御城 城下 田中城 松永 小島

駿河 一之宮 淺間大明神

名産 賤紙駿河府紙子 烟草日新竹細工日新

安倍川餅海道例あり久登蜜柑 十園子駿河の

富士茗 富士芙蓉 日香燻灰 府中餅丸子石

盆山清水 三保松落 神原結 沖津綱

酒清見 酢清見 大井黄 瀬戸

深飯 清見寺茶

○三穗社 有度郡三穗有リ

昔神女飛來懸羽衣於松枝漁人取之神女
失衣不能飛屢求之不得遂相約授衣神
女悅而飛去其後又來於是土人立祠奉之

○神名帳註三穗津姬乎云々

按伶人家有東遊者相傳云安閑帝御宇於
駿河國有度濱天女降現而為歌舞道守氏
翁者傳此曲矣予聞諸元資云三穗神社與
羽衣社不同今現二社在焉三穗社在正休

中羽衣社去乎林數十步在沙陵之下之各
啓蒙

○三保松原者在駿河國有度郡有度濱北有富
士山南有大洋海久能山嶮於西清見關田子
浦在其前松林蒼翠不知其幾千萬株也
殆非凡境誠天女海童之所遊息也按風
土記古老傳言昔有神女自天降來曝
羽衣於松枝漁人拾得而見之其輕軟
不可言也所謂六銖衣乎織女機中物

乎神女乞之渙人不與神女欲上天而無羽衣於是遂與漁人為夫婦蓋不得已也其後一旦女取羽衣乘雲而去其漁人亦登仙云神社考

○甲斐國 四郡 田圃 二千八百十四丁

田淺く畑深く四方晴く風きく陽きく
遠くく針木の花子くは牛馬多し
山代 山梨 八代 巨摩 都留

上管中 西 南北 二日合

知行高 二十四万二千石 江戶り 三十六里

甲斐 一之宮 淺間大明神

名産 郡内絹 日袖 日紙 甲州判 漆 糠 駒

姫胡桃 小梅 菱餅 折下本綿 題目石 生沢川

名所 小笠原 甲斐根 鶴郡 指出儀 塩山

菱山 山梨園 逸見津牧 忘川 身延里

黒駒山

神社

淺間

○淺間社 八代郡有 祭神神躰同富士一宮記

○伊豆國 三郡 田圃 二千八百十四丁

畑多 田お 塩焼又漁者多

田方 那賀賀茂 下 後大中國東西一日余

知行高 九万九千三百五十三石 江戸ヨリ 三十里余

伊豆 一之宮 三島大明神

名産

倭書守紙 三徳曆 八丈特紙 箱根竹

良姜

縮砂

打鉦

推草

名所

三島

伊豆山

古井森

沖島

走湯

伊豆湯

輕小湯

赤澤山

吾妻小登

箱根山

神社 三島 箱根

○伊豆 伊豆和名也東相摸西駿河出其一

中間之國故伊豆則出之義也日本武東征

時無伊豆名後代立當國乎

○三嶋社 賀茂郡有 祭神一座

大山祇命 一宮記

○崇峻帝御宇庚戌年出現改曆雜事記

○抄云伊豆國賀茂郡三嶋神社撰津國嶋

下郡三嶋社伊豫州越智郡木山祇神社

三所共一神也 神社考

伊豆三嶋明神者移伊豫三嶋以祭之伊

豫守實綱患旱祈之冷能因法師詠和歌

俄大雨禾不枯 日上

太宰大貳佐理任罷自鎮西還至伊豫國

泊風浪惡而不出船其夜夢三嶋明神告

云請書社額翠日佐理書以懸之風乃順

而發船佐理本朝無雙之能書也其額云

日本總鎮守三嶋大明神 日上

○神託 益人よ天よ形くひ地まうまう心成

うしかづく天照神乃教を行くこて人の

國よみまふとよとくログ人よこく人表人

たらんちあつひふこはまはあはあうふ

振を安く能ふうはりまはれ事成るはま

とりて其みまうとくくくくくくくく

○鴨長明乃記を爲思ふあまの松栢みどりまげ
く顔藝ハシヒはそあふく御まをり一活ハシヒは定
て四季乃シキ神カミ未ミはこくク以職シヨク掌シヤウにニはせ
て八月の殺ハシヒをウラヒ爲ウラヒはハたハつハ御ミ事コトをウラヒ乃ハりハじ
み奉ホウ給キめメつツりリすスレレとトかカらラ也 月上

東鑑文治五年九月頼朝於奥列伊沢郡鎮
守府奉幣八幡宮瑞籬ミツナ二ニ号ナ是田村九將
軍征東夷時此處奉勸請之灵廟也彼卿取
帶弓矢及鞭等納置之于舍在室ミ也ニ神社考

○景政社

鎌倉極樂寺切通江カ、在所ノ

北ノ山ノ間ニアリ松チキ椽チキニカイ程チキ十チキルチキカ
兩ノ殿ニ有リ名ナ石イシ記キ○祭マツル處トコロ 權カキ五カキ房カキ景
政カキ乃カキ灵カキ也○景政膏カキ逆カキ酒カキ義家カキ赴カキ奥列カキ之カキ位
矢中カキ景政カキ九カキ眼カキ不カキ拔カキ矢カキ七カキ日カキ遂カキ射カキ殺カキ其カキ寇カキ今
世患カキ目カキ疾カキ者カキ祈カキ此カキ社カキ有カキ效カキ云カキ神社考カキ○号カキ
東鑑元曆二年八月廿七日カキ宣カキ武カキ文カキ武カキ勅カキ依カキ之
云カキ出カキ依カキ之カキ宣カキ武カキ文カキ武カキ勅カキ依カキ之カキ云
以所カキのカキ女カキ身カキはカキ又カキふカキとカキ宣カキ武カキ文カキ武カキ勅カキ依カキ之カキ云

○エガク在柄天神 祭神菅家 於新下地より

東ふりりちる燈ふにほより東ふりりちる
燈亡しとりりちる死 後土所門院長官元
年二月廿五日建五太田道灌本願也

○スミナリ鎌足明神 祭処大織冠鎌足公ト云く人職
冠麻呂ふゆうてのひゆ京乃由井ユイノコウ
宿りし終ふまに後乃長官のゆをみよりるをまに
あはれふるは源と云ふ信長と云ふりめは後

て源金と号し 乙巳

○セト瀬戸明神 傳無所見 巳上鎌金

○アシカウ足輕社 同因足柄ニアリ 山ミセキ関和ありり

後右とりり此の爲父のふかひの社なりゆは 躬順
乃物持足柄の國迄とえりちるがふ村を居し信守うぬ 板本

○大和本紀云足柄明神者昔狩獵人一日
離籠妻而悲傷無止期也其及將死授一鏡
云若右有追慕之情則視此鏡焉仍如故者相
其亡妻之摸猶如生平也以其鏡祭為神々

所在國名相模一啓蒙

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○武藏國 二十二郡 田圃五万九百二十丁

廣大^ム少^シて山^カか^ハ田圃^{タノ}多^クに^シ野^ノ多^ク

○武藏 秩父^{チチブ}嵩^{タカ}者^ノ其^ノ勢^セ如^シ勇^ム者^ノ怒^リ立^テ日本^ニ

武美^{ホノ}此^ノ山^ヲ奉^ル為^シ東^ニ征^シ祈^ヒ以^テ兵^ヲ具^ス納^メ埋^メ岩^ノ藏^ス

故^ニ云^フ武藏^ノ風土^ノ記

久良岐 ^{クハラキ}	都築 ^{ツツキ}	多麻 ^{タマ}	檜樹 ^{ヒノキ}	新倉 ^{ニククラ}	入間 ^{イリマ}
高番 ^{タカバン}	比企 ^{ヒキ}	横見 ^{ヨコミ}	碓玉 ^{ヅツタマ}	児玉 ^{コタマ}	男衾 ^{オトカサ}
蕪羅 ^{ウラ}	榛沃 ^{ハシワク}	那賀 ^{ナガ}	賀美 ^{カミ}	足立 ^{アダチ}	秩父 ^{チチブ}
荏原 ^{ニハラ}	豊碓 ^{トヨヅ}	大里 ^{オホサト}	大菅 ^{オホスガ} 上 ^ノ 國 ^ノ 四 ^ノ 方 ^ノ 九 ^ノ 日 ^ノ 半 ^ノ		

江戸市城

後花園院市宇長祿二年壬申道灌
入道今の道灌山又築く

知行高

八十四万石

日本橋ヨリ

品川へ二里
板橋へ二里

江戸御城

城下

河越城

忍城

岩槻城

岡部

金澤

・久喜

武蔵 一之宮

氷川神社

名産

茶深

浅草海苔 品川の海苔

是者

五ノ二十三

江戸鬻會

川口蛭

長辛螺

海松喰

大栗螺

鱈

鯛

白魚

荒和布

神奈川海氣

鱧

久津英野老

久我素麩

岩染綿 日本綿

目黒市福餅

飛麻子

紙煙糸匣

綿繪

名所

霞関

小山田園

富士見阪

江戸見阪

清水阪

赤坂へり

不忍池

上野下忍

鏡池

隅田川橋

姥池

榎山池

流

堀兼井

牛込

亀の井

神王櫻

小町櫻

浅草櫻

高尾紅系

宗

村正光院ありむら吉永の古尾とよ
 杉原身とまがめをくまを舞し新く
 芝の海の眺 鈴石 鈴石の境内あり 鳥石 鳥石の境内あり 角田 玉川
 浅井門 向の岡 忍岡 荒蒲寄 業平渡
 矢口渡 武蔵野

神社 武蔵 氷川 神明 愛宕
 氷川 湯嶋 鷲宮

氷川社 足立郡有祭神 素戔嗚尊也
 日本武尊東征之時勸請也 兼俱神名帳註

貞觀十一年十月十九日壬申正四位下 国史
 山王社 武蔵江戸有リ 永田山一号ス

祭神 江州日吉二月に神傳八日吉ノ下ニ
 有リ。長祿三年小田原流河府の城あり
 ける時文昭年中に是れ其の跡と見ゆる所の
 浅井小知法せり不意とて寺に回縁の跡と入
 海池乃築ふにうせり 泰吉月十八日海を以
 て始 芝の岡 神明 天照大神
 祭九月十六日 一巻沈寛弘三年乙巳九月
 十六日小幣并人分まら此所小池とせり

如不^{イハ}事^{コト}子^コ三^ミ人^{ヒト}未^ミて^テ知^チ其^ノ由^ユ也^{ナリ}
後^ノ是^レ伊^ハ波^ハ津^ノ神^ノ也^{ナリ}此^レ以^テ記^ス之^ル也^{ナリ}
の^レ事^トも^もあ^らわ^らぬ^らし^らあ^らし^きに^もあ^らわ^らぬ^らし^きに^も
勸^メ修^メす^べし^と思^はふ^べし^と思^はふ^べし^と

○愛宕社 月江府^{ツキエ}に^あり 勸^メ請^メ手^テ記^ス未^ダ考^ヘ

所^ノ祭^ル 山城^ノ之^レ愛^宕石^山三^月に

○氷川社 江府^{ヨコエ}四^ツ谷^ノに^あり 額^ガ云^フ氷^川大^明神

祭^ル神^ノ未^ダ考^ヘ此^レ所^ノ入^ル間^ノ郡^也也^{ナリ}足^立郡^氷川^神

三^月に^あら^わぬ^らし^きに^もあ^らわ^らぬ^らし^きに^も

○神田社 江府^{ヨコエ}神^田に^あり 所^ノ祭^ル 平^将門^カ

矣^{ナリ}也^{ナリ}○神^田明^神者^也世^ニ傳^ハ平^将門^カ死^ニ埋^マル^ル者^也

也^{ナリ}朱^在院^御宇^承平^二年^平将^門在^リ於^リ此^也

馬^郡招^集東^関士^民等^ノ叛^テ攻^メ被^リ伯^父常^陸大

泉^国香^振威^於東^関于^時天^慶三^年正^月国

香^子平^自盛^侍藤^本秀^郷藤^原忠^文等^ノ家^リ

勅^命為^テ征^伐使^而赴^キ將^門居^城屢^戦遂^誅伐

將^門秀^郷得^其首^傳言^將門^首毛^留于^此云

見^于續^本朝^文粹^二 神^社考

相武天皇一葛原親王一高見王一高望王

良將 將門相馬小次郎自号平親王

○湯嶋社 江府湯嶋有リ 祭神 菅家

太田道灌持資在江戶城時文明十年六月五日於城官之中建菅丞相祠 同永秋

道灌宴坐一室夢中見接 菅丞相其翌朝

戎人卒然來獻管丞相所親筆之巨像可謂

其夢也遂於城外之北畔建管丞相祠堂寄

數十頃之美田栽梅花數百株

○鷲宮 武藏大田庄有リ祭神未考

建久四年十一月武藏大田庄鷲宮室前

血流卜筮云兵革之兆也因奉神馬鹿毛源

頼朝使榛谷四郎重朝莊嚴社壇神社考

○安房國 四郡 田園四千三百六十四丁

山川原野等みくしし七魚貝多し

養老二年五月日割ラ上総國四郡置之天

平十三年復旧ス其後又置景行天皇五十三

年冬十月至上総國ニ從海路渡淡ル水門ヲ云々

淡水門今安房國也 申後大中国南北一日半

平郡ハ安房ニ朝夷ヲ長徒ト

知行高九九一七百七十九石 江戸ヨリ三十里

城下 館山 勝山 北條

安房 之宮 洲寄大明神

名産 一本綿一本 小湊海苔小湊 幅海苔幅 浪浪の子浪の子

生家生家 紐苔紐苔 目黒目黒 鯉鯉

名所 野崎野崎 小湊小湊

千載集千載集 おけの海おけの海のの波波のの浪浪風風ふふああむむをを結結ししりりのの？

神社 比理姫

天比理乃咩社天比理乃咩社 安房郡安房郡 二有二有一一名名洲寄社洲寄社

祭神 太玉命太玉命 一宮記一宮記 仁壽二年七月

丙辰加從三位 文德實錄

神傳系上見

源賴朝石橋山ノ合戦ニウチマケタマイテ後治承

四年八月廿六日ノアケボノニ伊豆國真鶴崎ヨ

リ船ニ乗三浦ヲコロザシテヲセイダス折

節風ハゲシクテ水寄エ船ヲヨセカ子ヲ廿八日

ノ夕暮ニ安房國洲崎トイフ所ニ船ヲハセ

アケテ其夜ハ即大明神ニ御通夜アリテ

夜一、モ一祈念ヲゾ申サレケル

五ノ二十

○上総國 十一郡 田圃二万二千三百六十六丁

東南海濱廣く魚藻多し

上総下総ノ謂木枝也昔此國生天楠長

及數百丈時帝恠之卜之太史奏云天

下木凶事也因茲斬捨彼木倒南方也上

枝云上総下枝云下総也風土記

周集 天羽 市原 海上 畔蒜 屋陀

寅隅 埴生 長柄 山邊 武射

大管本甲國南北三日

知行高 三十七万八千八百九十石 江古ヨリ二十里余

城下 久留里城 大田喜城 飯田 佐貫城

総 一之宮 玉止神社

名産 鯛 魚田大磯より所産 鮎 日所より出依所より

蛤 魚田大磯より所産 長南紅花 魚田大磯より所産

名所 海上山日浮浪の山中 種津日溪 昔信山

神社 玉前

玉前社 直生郡ニ有リ 祭神 高皇魂尊

弟生産 一男 玉前王命也 一宮記

高皇產灵尊 神皇產尊

津速龜命 武乳速命

振龜命 前王

貞觀九年七月廿七日 從五位上 勲五等

玉崎神 從四位下 國文

相託 皇孫人よ理ふけり 神皇正統記

皇孫人よ理ふけり 神皇正統記

地より神と云ふ也 倭書

○平統國 十二郡 田圃二万二千三十八丁

山海多

其飾 千葉

匝瑿 海上

結城 猿橋

印旗

香取

大管

相馬

埴土

大管

豊田

岡田

大管

知行高三十九万八千二百九十石 江戸ヨリ又二十里

城下 高岡 多古 生實 小見川

枕倉城 古河城 関宿城 結城城

下 総 一之宮 香取神社

名産 結城細 日細 葛西海苔

名所 三度栗 葛飾 房寄 晴麻浦 真間入 南

田門 待乳山 千葉野 香取の海

神宮 関屋里 津家 波 書卷川

神社

取

○香取社 香取郡ニ有ル 亦神 齋主命

一宮記 ○天神遣經津主神タケミカヅチノカミ 甕槌神ウツチノカミ

使手ヒテ定葦原中國アサハラノナカクニ是時トキ齋主神イハヒノカミ号齋之大

人ヒト此神コノカミ在東國トウクニ揖取イツツク之地ノチ也ナリ日本紀

○神書抄曰齋主祭神之主也經津主神之

別称ナリ已下畧之 神社ノ

○經津主神者天之鎮神也其立出自

諾尊ノノミ初諾ハジメノ尊ミコ斯遇突シヨクニ血成チノ赤霧アカキリ天下

陰カミ曆リ直達ナオツキ天漢アメノ化為カレ三百六十五度

七百六十二 云磐石是謂星度之精也

氣キ祀ヒ為シ神カミ号ナリ云イハレ磐裂イハヒ是謂イハレ歲星之精

磐裂生イハヒノ根裂ネノ是謂イハレ熒惑之精根裂生

磐筒男イハヒノ是謂イハレ太白タイホク精ミコ筒男ツツノ生ナリ磐筒

女メ是謂イハレ辰星之精筒女生ツツノ經津主ツツノ是

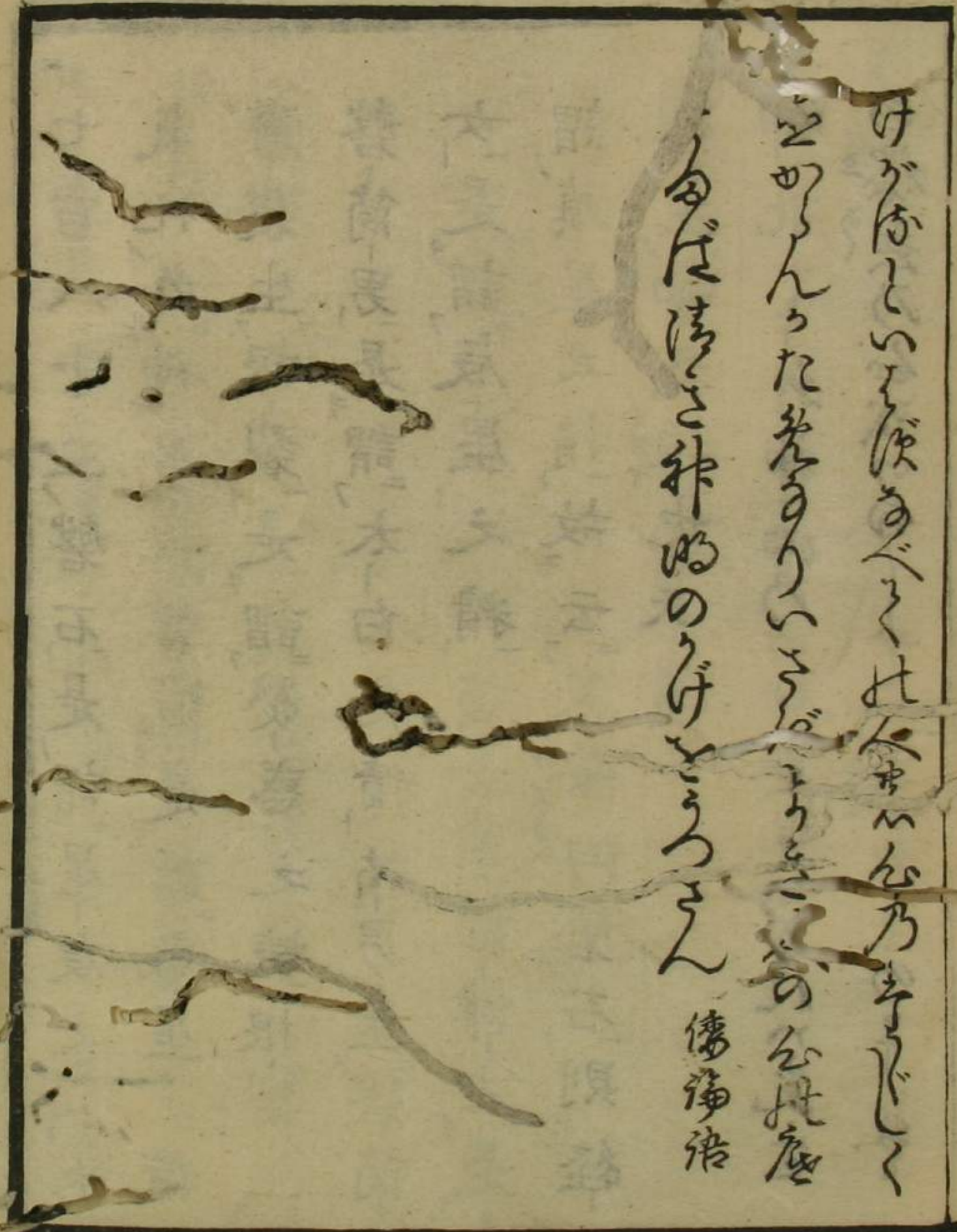
謂イハレ鎮星之精故イハレ云イハレ天安河テンアンカハ磐石則經

津主ツツノ神之祖ミコノ也ナリ天書

神託カミノ之終ノ神カミ乃ナリ心ココロ之ノ心ココロ乃ナリ心ココロ之ノ心ココロ

の據モト乃ナリ心ココロ之ノ心ココロ乃ナリ心ココロ之ノ心ココロ

けがふといふ候もくはれん心乃きりどしく
 之のんた老ありいさざうとてあを此處
 由だ清と神ののげとらえん 傳海傳



○常陸國 十二郡 田圃 四万二千三百八

田細長な多し 牛馬牧子扱あり 民家蚕と
 書しと糸たより 絹紗と織たり
 茨城 新治 真壁 龍波 河内 信田
 行方 那珂 久慈 麻沸 多河 右為 遠國

大管大々中園南北三日

知行高	七十五万三千六百石	江戸ヨリ	二十五里
城下	水戸城	府中	完戸
		土浦城	笠間城
下館城	麻生	牛久	谷田部
		下	妻

常陸 鹿嶋神社

一之宮

名産

浮龜

水産より物龜之

大方紙

當土佐行より

小松原（下）筑波山（暮）

菘和（田）經（十二月下旬）

只一日多く（鯉）

名所

小野（牧）

霞浦

麻橋宮

筑波山

急瀬川

月出湯

莫奈乃川

攝川

萩原里

沼のたけ池

瀧社（東）

名坂浦

芦橋山

筑波山の尾

筑波山

筑波川（入）

神社

鹿嶋

洗儀

志津

○鹿嶋社 鹿嶋郡二有リ 祭神 武甕槌神

也一宮記 ○伊弉諾尊拔所帶十握劍斬

軒遇突智其劍鑿垂血激越為神号

云甕速日神次燂速日神其甕速日

神是武甕槌神之祖也 日本紀 ○甕速

神之子燂速日神燂速日神武

甕槌神日上 ○高皇產靈尊遣經津主

神於葦原中國時此神進云豈唯經

津主神獨為丈夫而吾非丈夫者哉其肆
イキサシハゲシ
 有慷慨故即配經津主袖ソエテ令于葦原中國ツツノ
 相傳曰神誓以石為柱者石膚之際神明在也イニエスナリ云々
 ○神託 口をばひは茅束の中國ナカクニ北流生瓜めぐり
アメン天神乃みてたりとけ是躬忠遠流を志り
ホコぞけ天魔地乃降されとくくは國の者
 一人も悉神座とくく物ぐは中らふ事か一神
マジンゆふ決之するふりの國よおれた時と我れとて
 魔軍日の下北雪乃おとく年をくう勢以國

人の心誠のハ原氏國の勢をうつりて其の如きの
 おみくしつてわれとてさるものもあつて
 かくしむる國を我れらの國とす
 用いしむる國を我れらの國とす
倭國

於て
 後成
 のりや

○洗磯前社 鹿嶋郡ニ有リ 祭神

小碓名命 文德實錄云齊衡三年十二

月戊戌帝陸國上立鹿嶋郡大洗磯前有神

新降初即民有煮海為塩者夜半望海光耀

屬天明日有雨怪石在水坎高各八尺許體

於神遺非人開石塩翁私怪之去後一日亦

有二十餘小石在而似若待坐彩色非常或

形如門唯無耳目時神憑久云我是大奈母

知少比古奈命也昔造此國訖去住東海今

為濟民更亦來飯

○志津社 久茲郡ニ有リ 祭神一座

手力雄命 思道命子也 傳系有上

神紀所載天神入窟之時有功信州戶隱

神同垂跡也 啓

已上東海道畢

日本風土記卷五終

